

# LOCAL GOOD（地域×ICT）プロジェクト事業について

## LOCAL GOOD（地域×ICT）プロジェクト実行委員会

### (1)共働のきっかけ・必要性

弊NPOにはネットを活用した地域活動を行ってきた実績と課題の投稿等、様々な方を巻き込む仕掛けが既にあります。

#### ①ネットを活用した地域活動の実績

##### ・天神大名WiFi化協議会(2008年)

ITコミュニティの力で福岡をより住みやすく、より楽しくしたい「AIP」の理念と、日本でWiFiデンシティ（密集地）都市をITコミュニティの力を借りて作りたいFON JAPAN の思いが重なり、日本で初めて、「街をまるごとWiFi化」するプロジェクトが、ITコミュニティとNPO主導で実施しました。

##### ・大名なう(2009年)

天神・大名WiFi化プロジェクトでつながった商店街の皆さんと、ITを使って大名地域をもっと盛り上げたい、お客さんに来てほしい、ということで「天神・大名WiFi化プロジェクト」名義で始まったプロジェクトです。その頃日本でブレイクしはじめたTwitterを使って、街の情報を発信すれば、IT利用に興味が無い商店街の方も、気軽に使えるのではないかと、ということで、大名のお店に「#daimyo」というハッシュタグを使ってTwitterで呟いてもらうプロジェクトを開始しました。多くの参加店が、直接的な売上げの向上のみならず、新規顧客の獲得、参加店の間のコミュニティ組成による、新規イベント発生などの効果を与えることが出来ました。

#### ②課題の投稿等、様々な方を巻き込む仕掛け

##### ・LOCAL GOOD FUKUOKA(2015年)

税収が減り、社会コストが増える中、公益を担保していくためには、地域に住み暮らす市民や企業が、地域のことに意識を持ち、それぞれができる範囲で時間・知恵・お金を「投資」をすることができるかどうかにかかっています。「LOCAL GOOD FUKUOKA」では、地域に住み・暮らす住民や企業、NPO法人などの民間主体が中心となって、顔の見える関係を大切にしながら、ネットを活用し、課題の見える化、解決に向けたディスカッションやプロジェクト化、クラウドファンディングによる資金の収集という循環をつくっていくことを目指し、地域をよくする活動「地域のGOOD=ステキないいコト」に多くの主体が参加するきっかけをつくっています。

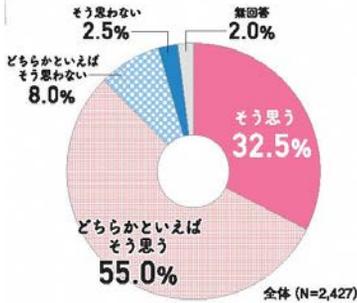
特に「①ネットを活用した地域活動の実績」では、主導はNPOやコミュニティでしたが、行政のサポートがあったからこそ実現した事業であり、今回の福岡市との共働においても、リアルな課題を持つだけでなく、様々なノウハウや知識を持つコミュニティや団体の紹介や連携の支援などを担ってもらえる重要性を理解しています。

また、福岡市では、「地域のまち・絆づくり検討委員会」からの提言にあるように様々な主体（企業、事業者、NPO、学校、行政、各種団体等）がそれぞれの知恵やノウハウを持ち寄り、補完、連携し合う状況を目指していることから、リアルな連携とAIPが得意とするネットの活用によって、新たに「地域課題（活動）」に関心がある人を増やすことができると考えます。

## 市担当課はなぜこの事業に取り組むことにしたのか

### 【平成28年度 市政に関する意識調査(抜粋)】

☆地域活動は大切だと思いますか

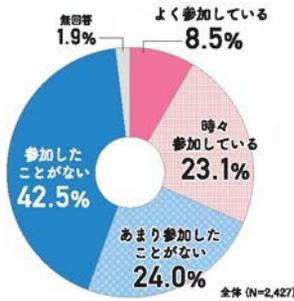


『そう思う』  
と答えた人は  
**87.5%**

#### 活動に参加しなかった理由は何ですか？



☆過去2年間において、地域活動に参加したことがありますか？



『参加していない』  
と答えた人は  
**66.5%**

地域活動を大切だと思っている人が9割近くいるのに対して、実際に参加している人は3割程度。

参加していない理由として、「仕事で時間が取れない」「参加できる時間と活動が行われている時間が合わない」などとなっている。

このように、時間や場所などの制限がなければ、地域活動に参加したいと思っている人が潜在的におり、その人たちがこのプロジェクトを通じて、地域に目を向け、いずれ地域活動に参加してくれるようになれば、地域活動の担い手不足や参加者の減少といった地域課題を解消していく糸口（きっかけ）になっていくのではないかと考えた。

## (2)事業の目的

### 『リアルとネットの融合』

リアルな場だけでなく時間や場所を選ばないインターネットを活用し、ネット上でも身の回りの課題について相談、話し合うことで人任せにするのではなく、自身で考えて、行動する“自分ゴト化”する人を増やし、普通に住んでいる人の地域に対する感度のアップ。裾野を広げ、「解決したいと思っているのは自分だけじゃないんだ!」「みんなで解決出来るんだ!」「挑戦してみよう!」という共感、共鳴、共創による課題解決が出来る地域(世界)を目指す。

また、こうして自分ごと化した人に対してのリアルな相談の機会を作り、問題解決をサポートする。

### (3)事業の目標

#### ①目指す事業成果

ITを活用し、ネット上への課題投稿数、ネット上でのディスカッション(スレッド)数を増やすことで「リアルとネットの融合」をはかり、リアルなワークショップだけではなく、ネットワークで繋がることも大事にすることで、直接参加出来る人だけではなく、地域に関心のある人をより多く巻き込んで自分の地域を良くしていく。

また、実際に身の周りの課題を知り、事例から課題への解決方法、進め方を考えたり、課題解決に向けたプロジェクトやチームを生み出す。

#### ②成果指標

成果指標	現状値	目標値
1. ネット上への投稿数	48	約1,000
2. ネット上でのディスカッション(スレッド)数	15	約300
3. 課題の見える化&解決勉強会参加者数	29人	約50人
4. 課題解決アイデアソン参加者数	0	約50人
5. 課題解決に向けたプロジェクトやチーム数	0	約4プロジェクト(チーム)

## (4)事業の内容

### 1. ネット上での場づくり事業

#### ○事業内容

目標：課題解決のリアルな場に参加できない、共感してもらえない人に出会えない人も参加できる場づくり

成果：ネット上で参加、ディスカッションできる場

ターゲット：課題解決のリアルな場に参加できない、共感してもらえない人に出会えない人

内容：現在使用しているネット上のサービスでは、課題を投稿することは出来ませんが、個々の課題などについてディスカッションは出来ない状況のため、現在のサービスにディスカッションが出来る機能を追加開発、又は同役割を果たすネット上のサービスを活用して準備する。

準備しただけでは、使い方を知らない人、何を投稿したら良いかわからない人が多いと思われるので、コミュニティマネージャーを設置し、周知や使い方、投稿された発言が放置されたままにならないように発言や参加を促したり、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認したりする(ファシリテーター)ことで、ディスカッションの活発化を図る。

実施日程：2017/04～2018/03

ネット上への投稿数：約1,000

ネット上でのディスカッション(スレッド)数：約300

#### ○現状

福岡市政だよりへの掲載や、西日本新聞の推薦によるLOCAL GOOD FUKUOKAの地域創生大賞の受賞、LOCAL GOOD STATIONへのNHKからの取材など、各々のネットワークを活用し、事業の認知度が上がった。

LGFサイト上にFacebook(以下FB)アカウントでコメントできる機能を追加し、コミュニティマネージャーによるサイトやFBグループ上での周知や返信による参加の促し、毎月第一火曜日に開催しているLOCAL GOOD STATIONにて使用方法を説明している。

しかし、FBアカウントを必要とするコメント追加はハードルが高く、途中で脱落する人が多く見られ、思った以上に投稿数やディスカッション(スレッド)数が増加していないのが現状である。

実施：2017/04～2018/09/11

ネット上への投稿数：48

ネット上でのディスカッション(スレッド)数：15

## ○改善が必要な点

以下の改善が必要と考える。

- いいね！はもらえるがコメントはなかなか投稿されない
- より多くの人に知ってもらうためのツールがない（フライヤーなど）
- みんなの声をもっと集められるようになる工夫が必要

## ○平成29年度(後期)の活動について

先の改善が必要な点を踏まえ、後期は以下の活動を行うことで、ネット上への投稿、ディスカッションの増加をはかる。

### ① テーマを設ける & 地域を絞る

投稿できることの幅が広すぎて投稿しづらいのかもしれないと考え、みんなの声にもっと声を集めるために、テーマや地域に絞って投稿をうながしてみようと思う。

例) 9月は警固地区の課題、10月は福祉、など

→地域に絞ると、自ずと自分ゴトと感ずるのではないか、また興味のあるテーマの時は参加者もそれぞれの考えなど投稿したくなるのではと考えている。

### ② 指名制

ネット上でアイデアをもらいたい時、LGSのように「○○さんどう思いますか？」など指名して答えてもらう。

攻めの姿勢で行う。これが可能なのもLGSによる信頼関係があるから。

→指名されることにより強制的ではあるが、参加してもらうことでネット上のディスカッションも自分ゴトの世界と感ずてもらい、いずれ積極的な参加につながるのではと考えている。

### ③ 紙媒体での周知

LGF自体のフライヤーをデザイナーの方と相談中。制作し配布・設置予定。

また  
→フライヤーがあればもっとひとからひとへ伝えていきやすいのではと考えている。

## 2. 課題の見える化&解決勉強会事業

### ○事業内容

目標：(1)ネットへの投稿、ディスカッションを知ってもらう

(2)課題を見つけ、自分ゴト化するだけでなく、課題解決にむけた進め方等を学ぶ

成果：(1)リアルな場に参加出来なくても、ネット上で参加できる人が増える

(2)身の周りの課題を知り、事例から課題への解決方法、進め方を考える

ターゲット：関心はあるけどまだ自分ゴト化出来てない人、自分ゴト化して課題に対して取り組んでいる人

内容：ネットへの投稿を知ってもらう為にネットだけでなく、地域を歩き回るフィールドワークも取り入れ、自分ゴト化を既にしてる人、自分ゴト化まではなっていないが関心のある人が実際に顔を合わせるリアルな場を作り、参加者同士と一緒に身の回り(地域)にある課題を知りコミュニケーションを取ることで繋がるイベントも開催し、見つけた課題でネット上へ投稿し、課題の見える化やディスカッションを促します。

また、同時に実践者(著名人)を招き登壇してもらうことで、事例を学び自分が直面している、またはこれから直面する課題の解決に活かしてもらいたいと思います。

実施日程：2017/10

参加予定数：約50人

実施場所：大学、公民館など

### ○実施概要

テーマ：警固の街を撮る ～好いところ、好かんところ～

日時：平成29年9月10日(参加者：29名)

場所：警固公民館3階講堂&警固校区周辺

ゲスト：写真家・株式会社アルバス代表 酒井咲帆氏  
 ブLOGGER&webデザイナー Bene(ベネ)氏

内容：ゲスト講話

フィールドワーク(警固の街の写真を撮る)

ディスカッション(撮ってきた写真を見ながらディスカッション)



29名の方に参加いただいた。公民館での開催により、これまでにリーチ出来なかった主婦層や子ども層の獲得へ繋がるとともに、普段の生活では考える事がほとんどない地域のことについて、カメラのレンズを通して、違う視点で捉えてみる事ができた。

新しい「発見」が何か皆さんにとって、街に対するアクションへの第一歩へと繋がった。



### 3. 課題解決アイデアソン事業

#### ○事業内容

目標：実際に行動へ移し、解決へと結びつける

成果：課題解決に向けたプロジェクトやチームが出来る

内容：ネット上に投稿された課題やディスカッションを振り返ったり、解析したりして解決策を考えるワークショップ(アイデアソン)も行うことで、社会課題の解決に興味がある企業、技術者なども巻き込み、解決の具体化と更なる自分ゴト化の裾野の拡大を行います。

実施日程：2018/02

参加予定数：約50人

実施場所：大学、公民館など

#### ○平成30年2月頃開催予定

#### (5) N P O と市の役割分担

以下のように役割を分担して取り組んでいる

担当	内容
LOCAL GOOD FUKUOKA	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネット活用に関する企画、開発マネジメント</li> <li>コミュニティマネージャーの発掘、育成</li> <li>コミュニティマネージャーとのネット活用の教育、周知</li> <li>イベントの企画、福岡市との調整、ゲストの調整、運営、集客</li> <li>アイデアソンの企画、福岡市との調整、ゲストの調整、運営、集客</li> <li>福岡市が進めている施策等との連携、調整</li> <li>他部署との連携・調整</li> </ul>
福岡市	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在進めている施策等との連携、調整</li> <li>福岡市の既存制度に関する情報提供</li> <li>事業を進めていくうえで必要となる他部署との連携・調整、関係機関の調整</li> <li>信頼</li> <li>場の提供、事業の告知など</li> </ul>

## (6)担当者の声・市民の声

### 1. 担当者の声

(良かった点)

- ・ 公民館でのイベントの参加者は、日頃地域活動に参加されていない人がほとんどであった。テーマの選定により、地域に関わるきっかけを提供することができる。

(懸念や不安な点)

- ・ これまでの地縁（顔の見える関係）による地域活動に、ネットユーザーの参画がどこまで浸透するか
- ・ 今後、投稿やディスカッションがどこまで活性化されるか
- ・ 誕生するプロジェクトやチームと既存の自治協議会、自治会・町内会との連携・協力が円滑に進むか

### 2. 市民の声

#### ■参加者の感想(一部抜粋)

- ・ 今まで街歩きは趣味の一環でしたがもっと踏み込んで何かできたらーと感じました
- ・ 写真をからめて、地域のことを考える、今回のようなものだとすごくたのしくて考えやすかったです。今後もあれば参加したいと思いました
- ・ 警固だけでなく他の地区でもやるといいと思います
- ・ 地域密着。これからの街づくりに大事な事だと思いました。知人にも参加の呼び掛けをしたいと思います
- ・ いつもきれいだなーと思いながら撮ることが多くてテーマを持って撮ることが少ないのでチャレンジできてよかったです
- ・ 新しい発見ができました。視点が少し変わりました
- ・ 子供達が自主的に動いている姿を見られただけで満足でした
- ・ 警固校区を歩いて娘と写真を撮ることが出来、他の方々ともお話しが出来て楽しかったです

#### ■公民館からの感想

公民館長、公民館主事からの感想。今後の共催に対しても前向きな意見をいただいた。

館長：とても楽しく、有意義な1日でした。参加者も、人数・世代共にいい感じでした。大人から子どもまで、様々な意見が聞けてよかったです。普段から地域に関わっている方々は、どうしても見方が一元的になってしまうので、地域（自治協議会関係者は特に）にも聞いてもらいたい気がします。

公民館的としては、いかにして公民館デビュー（地域デビューの前段として）してもらうか、が大きな課題ですので、新しいイベントは大歓迎です。警固公民館に来たことがない方も多く、今回のイベントをきっかけに、公民館や地域に興味関心を持っていただければと思います。今後もAIPさんと一緒にやれる事業があるといいですね。

主事：楽しく参加できました。時間が長いと思っていましたが、あっという間で充実した時間でした。子どもと一緒に活動できたのが良かったです。（子どもたちの発想が新鮮でした！）グループワークで皆さんと仲良くなれたのも良かったです。

## (7)30年度への展開

### 必要性と有効性について

福岡市との共働によって実現した公民館でのイベント開催は、これまでにリーチ出来なかった主婦層や子ども層の獲得へ繋がり、これまで開催してきた毎月一度開催しているLOCAL GOOD STATIONでは得ることが出来ない街の視点を主婦や子ども達から得ることができたことは有効であると思われる。

### 事業計画

#### 1. プロジェクトの実施とロールモデル化(2018/04 ~ 2019/03) \* 通年

1年目に出来たチームが実績を作ることで、ロールモデルとして、新たに「地域課題（活動）」に関心がある人を増やす。

#### 2. プロジェクトの発信(2018/04 ~ 2019/03) \* 通年

ネットやチラシなどを活用した情報の発信による、企業(起業)や関心はあるが一步踏み込めなかった人の巻き込み。

#### 3. 公民館で定期的にイベント開催(2018/5, 9, 11, 2019/1)

警固公民館でのイベントを活かし、LGSに近いかたちで公民館にて定期的にイベントを開催し、より地域密着の課題解決の場を作る。また公民館イベントの内容をLGSと紐付けし、それぞれの活動をリンクさせ、参加者が公民館⇔LGSのどちらも参加しやすくする。